

登録コード	EKF11900	開講年度	2026					
授業科目	社会科授業分析演習					担当教員	篠崎 正典 他	
英文授業名	Lesson Studies in Social Studies Education					副担当		
単位数	1	講義期間	前期(前半)	曜日・時限	火曜・1時限		履修学年	
講義室				授業形態	演習	備考		
信大コンピテンシー	非該当							
(1)【授業の達成目標】	【授業で得られる「学位授与の方針」】					⇔	【授業の達成目標】	
	2 6 E A カリ，2 5 E A カリ，2 4 E A カリ							
	教育の専門職としての学識・技能					⇔	社会科教育の授業について授業記録の作成および記録分析ができる。	
(2)授業の概要	演習形式で，社会科教育学の専門性を元に，社会科教育（社会科、地理歴史科、公民科）の実践や授業の記録・分析方法について学ぶ。また，各自の課題に対応した実践・授業記録を実際に分析・検討し，授業作りにつなげていく。							
(3)授業計画	第 1 回： 社会科教育の実践・授業の記録および分析方法についての理論 第 2 回： 社会科教育の実践・授業の量的記録に関する記録・分析方法 第 3 回： 量的データ分析の演習 第 4 回： 事例の記録の量的分析と検討 第 5 回： 社会科教育の実践・授業の質的記録に関する記録・分析方法 第 6 回： 事例の記録の質的分析と検討 第 7 回： 実践・授業記録の分析に基づいた学習過程の改善・構想（レポート提出）							
(4)成績評価の方法	・各回の発表内容（40％），質疑応答・議論の内容（20％），およびレポート（40％）によって「達成目標」の到達度を評価する。 ・評価割合は，若干の調整をおこなうことがある。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀，89-80% 優，79-70% 良，69-60% 可，59%以下 不可							
(5)履修上の注意	・授業は、オンライン（Zoom）及び対面で行う。eALPSまたはメール連絡を参照すること。 ・教員と受講者が配布する資料はeALPSを使用して行う。授業前に配布資料を確認し、目を通した上で授業に参加すること。 ・履修に当たっては，自らの研究課題を考慮し，指導教員と相談の上で決定すること。							
(6)質問,相談への対応および連絡先	研究室、随時、mshino@shinshu-u.ac.jp							
(7)成績評価の基準	「卓越している」：(1)研究課題，(2)理論的枠組み，(3)授業内容と専門性，(4)研究の意義，のすべてについて先行研究の成果と限界に基づいた発表，討議，およびレポート構成が実現できた上で，(1)～(4)のうち 3 つ以上について発展的な発表，討議，およびレポートが実現できている。 「かなり上である」：上記(1)～(4)すべてについて先行研究の成果と限界に基づいた発表，討議，およびレポート構成が実現できた上で，(1)～(4)のうち 2 つについて発展的な発表，討議，およびレポートが実現できている。 「やや上にある」：上記(1)～(4)すべてについて先行研究の成果と限界に基づいた発表，討議，およびレポート構成が実現できた上で，(1)～(4)のうちいずれか 1 つについて発展的な発表，討議，およびレポートが実現できている。 「水準にある」：上記(1)～(4)すべてについて先行研究の成果と限界に基づいた発表，討議，およびレポート構成が実現できている。							
(8)事前事後学習の内容について	・【事前学習】質疑応答・討論のための資料を準備すること。また，研究課題に関連した文献等を，図書館等で検索・収集し，研究課題の設定の仕方や研究方法論に着目して要約したり，吟味したりすること。 ・【事後学習】質疑応答・討議を通じて生まれた課題について，事後に各自で調べて再検討すること。 ・この授業は45 時間の学修を必要とする内容であるため，30 時間以上の時間外学習が必要となる。							
【教科書】	指定しない							
【参考書】	・日本教育方法学会編『日本の授業研究〈上巻〉授業研究の歴史と教師教育』学文社，2009年 ・日本教育方法学会編『日本の授業研究〈下巻〉授業研究の方法と形態』学文社，2009年 ・日本社会科教育学会編『社会科教育事典（第3版）』ぎょうせい、2024年							